

京都市リユースびん回収 の取組

京都市環境政策局
循環型社会推進部まち美化推進課

平成27年1月13日



リユースびん回収事業の目的

- * 京都市では、「平成32年度までにごみ量(受入量)をピーク時の半分以下の39万トンにまで削減する」という挑戦的な目標を掲げた、「みんなで目指そう！ごみ半減！循環のまち・京都プランー 京都市循環型社会推進基本計画(2009- 2020) - 」を着実に推進するため、ごみの減量と共に、資源物回収とリサイクルを積極的に展開している。
- * こうした中、洗って繰り返し使えるリユースびんは、リサイクルするよりも環境に与える負荷が小さいため、京都市では、平成16年度からリユースびん等の拠点回収事業を実施している。

リユースびん回収事業の概要

- * 平成26年11月末現在，まち美化事務所や区役所・支所，商業施設等の**市内158箇所**（うち，酒販協力店22店舗）に京都市が作製した回収ボックスを設置し，一升びん，ビールびんを回収対象として回収を実施している。

※酒販協力店は，市が直接回収するものではなく，酒販店店頭にて市民からびんを回収し，京都硝子壺問屋協同組合やビールメーカーに戻すことでリユースを推進している。



- * 市民が排出したリユースびんについては，市からの委託により，京都硝子壺問屋協同組合（びん商，13社）が回収・運搬，選別を行う。その後，同組合にて，洗浄・検査を行い，リユースを推進している。

本事業におけるリユースびん回収の流れ

① 拠点回収(本市)



② 運搬・選別(委託)



③ 洗浄・検査(びん商)

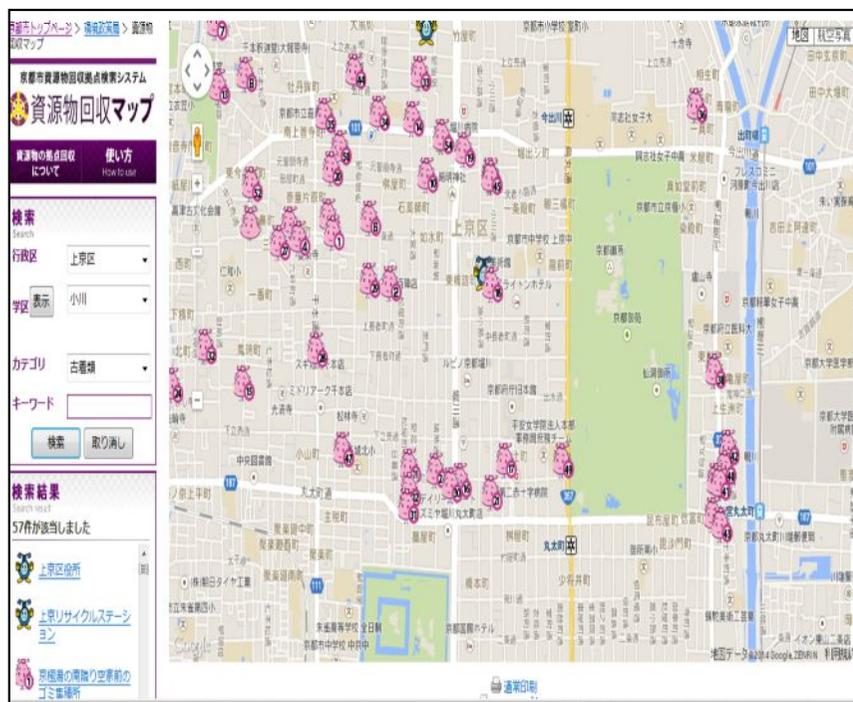


清酒メーカー・
ビールメーカー
へ納品

※洗浄は、一升びんのみ実施

リユースびん回収事業の市民周知

①各行政区別にリユースびんを含む資源物回収マップを作成，市民の協力を促す。



②まち美化事務所(7箇所)や各区役所・支所のエコまちステーション(14箇所)が地域に出向き，移動式拠点回収や臨時資源物回収を実施し，他の資源物と併せて，リユース，リサイクルについての市民周知・啓発を行っている。

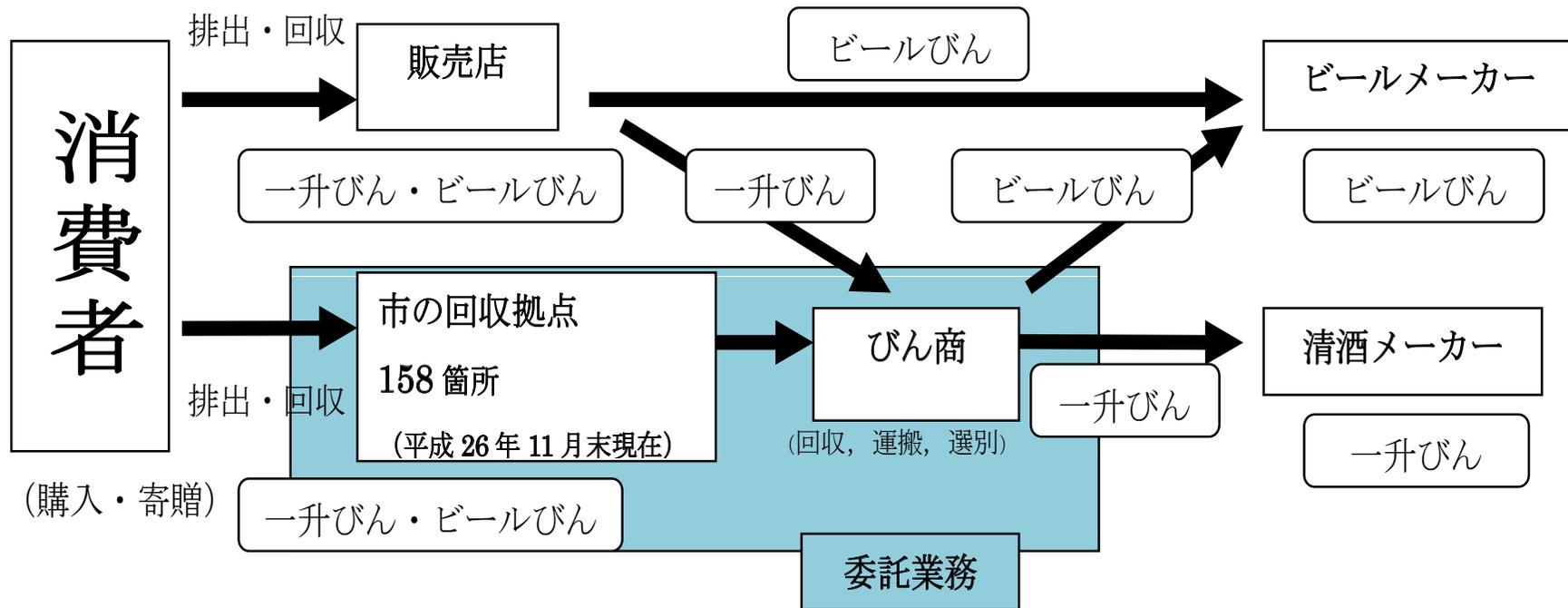


本事業における回収量の推移

年度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
リユースびん回収量	5t	32t	58t	74t	76t	76t	82t	83t	84t	81t	50t
拠点数	22	44	47	79	79	104	127	146	151	151	158

(平成26年11月末現在)

京都市におけるリユースびん回収の流れ(概要)



※なお、市の回収拠点に排出されたワンウェイびんについては、委託先であるびん商が、リユースびんと共に回収後、別途、選別を行い、カレットなどにリサイクルしている。

本市回収拠点の意義

- ①ディスカウントショップやインターネットでの購入、また、贈答品として受け取った方などは、身近にリユースびんの回収を行う販売店がないなど、びんをリユースできない場合が想定されるため、気軽に持ち込める拠点が必要である。
- ②リユースびんが、家庭から燃やすごみや資源ごみ(ワンウェイびん)と一緒に排出されると、リユースびんの本来の役割が損なわれてしまうため、本市が回収拠点を設置し、びんのリユースを広報するとともに、確実にリユースのルートに乗せる環境を整える。

本事業における課題

- * 回収拠点でのワンウェイびんの混入率が、平成23年度以降、横ばいとなっており、さらなる分別を市民に呼びかける必要がある。
⇒とりわけ、ワンウェイびんの混入率に改善の見られない拠点については、回収BOXの一時撤去など店舗や回収業者との協働による、ワンウェイびん混入率低減のための対策を講じる必要がある。
- * 一升びんとビールびんは回収後リユースされているが、独自の形状のびんを使用しているメーカーもある。びんのリユース拡大に向け、酒造メーカー等に可能な限りリユースびんの使用を働きかけていく必要がある。

リユースびんとワンウェイびんの回収量の比較

(平成26年11月末現在)

年 度	リユースびん	ワンウェイびん	合 計
16	5t(45%)	6t(55%)	11t
17	32t(41%)	46t(59%)	78t
18	58t(30%)	137t(70%)	195t
19	74t(22%)	269t(78%)	343t
20	76t(24%)	241t(76%)	317t
21	76t(54%)	66t(46%)	142t
22	82t(64%)	46t(36%)	128t
23	83t(66%)	42t(34%)	125t
24	84t(67%)	41t(33%)	125t
25	81t(65%)	43t(35%)	124t
26	50t(63%)	30t(37%)	80t

今後の展開

①本市とびん商との協働による取組

⇒本市HPとびん商HPの相互リンクなどを検討し、リユースびんの意義や回収の取組を広く、かつ分かりやすく情報発信する。

②本市エコバスツアー・施設見学などの積極的な実施

⇒実際に回収・洗びん・出荷作業等を見学・学習する機会を積極的に設けるなど、市民へのPRや周知啓発の強化を行うことを検討する。

③スーパーなど市民が身近に持参できる場所に回収ボックスを設置し、リユースびんの回収拠点数や回収量の拡大を図る。移動式拠点回収や地域での臨時回収の際に啓発・回収を行うなど、市民への積極的な情報発信を行う。